



県歯科医師連盟評議員

鈴木 龍

歯科医は患者さんによく「力を抜いて」と言う。人間ドックの胃カメラで私自身が言われてしまった。自分自身力が入れないように注意していたが入っていたようだ。



力を抜いたら、嘔吐おうとが減り器具の痛みも減った。

歯科治療中に手を握り締めている患者さんは多い。力が入ると、軽度の刺激や痛みにも過剰に反応する。口唇の筋肉も緊張して固くなり可動範囲が狭くなる。ほんの少しの身体動きが、私たち歯科医にとってはそれが危険

治療時は「力を抜いて」

□□ 13 □□

な動きとなる。飛散防止のため目を閉じてもらうが、それが余計に恐怖心を増すのかもしれない。

歯科治療が大きなストレスかどうかは患者さん次第だが、昔より鎮静療法や全身麻酔がよく用いられる。しかしストレスにこれ以上弱くなっているのは良くない。ストレスに耐えられないことによる事故や事件が増えると予測されるからだ。無菌室で育った生物は弱い。ちよつど良いストレスを乗り越えていく方が精神的に強くなる。

パニック障害も近年多い。過換気症候群も緊張やストレスから起きる。症状は、速く呼吸をした時に感じる手足や唇のしびれや動悸どうき、目まいなどがそれだ。疑似体験は勧めしないうが、普通ならすぐに苦しくなって速い呼吸は続けられない。身体にある自然の摂理を失うと人間は簡単に変調をきたす。日本人はいろいろな意味で弱くなったが、社会全体が過保護であるように思うのは私だけか。